第６回　橋本市都市計画審議会専門委員会及び

橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会　議事録(抜粋)

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名称 | 第６回　橋本市都市計画審議会専門委員会及び橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会 |
| 日　　時 | 令和4年6月17日(金)　午後1時30分～ |
| 場　　所 | 橋本市教育文化会館　3階　第1研修室 |
| 出 席 者 | 委員(敬称略) | 〇橋本市都市計画審議会専門委員濱田　學昭　　平家　利也　　乾　　幸八　板橋　真弓　杉村　春美〇橋本市都市計画マスタープラン策定検討委員会濱田　學昭　　葛原　芳秀　　西山　恵三　　池田　和夫　　大原　康平　　向井　景子　　　栄迫　仁志　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【出席委員　11名】 |
| 公開状況 | 公開 |
| 傍 聴 者 | 0名 |
| 次　　第 | 1．開　　会2．報告事項　　「第3回「都市計画タウンミーティング(マスタープラン策定ミーティング)」の開催結果について3．協議事項将来ビジョンと都市づくりのテーマについて4．閉　　会 |
| 資　　料 | ・第3回「都市計画タウンミーティング(マスタープラン策定ミーティング)」の開催結果について・第6回合同委員会資料 |

**〇委員長挨拶**

　皆さん、こんにちは。いろいろお世話になっていると思います。お世話になっている中で、わかりにくいところがいくつかあろうかと思いますが、今日はその話を含めて、今日と次回の2回にわたって今回策定する都市計画マスタープランの骨格的なものを議論していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**〇報告事項について**

5月29日(日)に「第3回都市計画タウンミーティング(マスタープラン策定ミーティング)」を開催した結果報告を資料をもとに行いました。

**≪意見等≫**

・（当日若い人の意見を聞いたほうがいいという話題が出たことに絡んで）若い人へのアプ

ローチということで、最近は仮想現実、メタバースという技術や概念が流行っている。実

際の空間ではできないことを仮想空間で行う。そういった方面に取り組んでいくという

のもいいのでは。実際橋本市は利用できる土地も少なく財政的にもハードを大きく整備

するのは難しい。

・昨今、コロナをはじめ世界情勢が大きく動いている中で、周辺自治体も含めて環境が大き

く変わろうとしている。その中で、橋本市は中だけでなく外も見ながらどういうまちとし

て存在していくべきなのかを考える必要があると思う。

・当日、アンケートでは書いてくれているが、積極的な発言は少なかった。ほかの市町村と

比べても、橋本市民にとって都市計画というものが遠い存在として考えられてしまって

いるように感じられる。そのことがとても都市計画行政にとって危ういと思う。

**〇協議事項について**

　都市計画マスタープランを策定するにあたっての大本となるテーマや基本方針の暫定案を提案しました。それをもとに、今回と次回の2回を使って、将来ビジョンの確定を行っていただくため、議論を深めていただきました。

　今回の議論を一度持ち帰っていただき、再度次回の委員会で結論を出していただくことになります。

**≪濱田委員長からの補足≫**

まちづくりを行うにあたって、個々の事業はそれぞれ単独で行うだけではそれだけで終わってしまう。それでは効果がない。相互に連携してこそ大きな効果として現れるし、市民にも認知される。そして、相互の連携を発揮するために将来ビジョンが必要になる。

　橋本市はこれまで街道沿いのまちとして栄え、その歴史の上に商工業や農業、文化が発展してきたうえで、今住宅都市として存在していると自分は考えている。

　ビジョンに沿う形で、６つテーマをあげさせてもらっていますが、土地利用といったまちの骨格に関係するテーマと市民の身近な生活環境に関するテーマを特に取り上げたい。特に土地利用については、無秩序な開発をこのまま放っておくとまちとしてテーマについても６つだけでなく、必要と思えばもっと意見をいただいて増やすなど考えていきたい。

**≪意見等≫**

・テーマとして、先ほどもデジタルの話があったが、仮想通貨やデジタルのポイントなど田

舎でも取り残されないように考えて取り組んでいかないといけないと思う。

・高野口などでも今織屋さんが撤退され工場跡などの空き地が増えていっている。その空

き地が全く違う用途の店舗とかに変わっていっているが、それが果たしていいのか。跡地

利用について、先ほどの先生の話にもあったが、何ができてもいいというわけではないと

思う。

また、これらのテーマも一斉に全てを解決することはできないと思うので、優先順位をつ

けたりなどしていく必要があると思う。

・土地利用に関連して、利活用したい土地や建物があっても相続や管理の問題で話が前に進

まないことが少なくない。土地利用のルール化と並行してこういった部分を解決するた

めの取り組みを進めてもらいたい。

・テーマ１とテーマ2の違い、テーマ6で拠点市街地をある程度具体的に提示してあるこ

とについての説明をお願いしたい。

→テーマ１は市街地全般についてを指している一方で、拠点市街地というのは現在長期総

合計画にて地域拠点や交流拠点とされている場所の再生を指している。表記については

今後わかりやすいように工夫したい。

・地区の構造について、現状の区長さんをトップとした地域づくりは今後担い手の不足から

成り立たない地区が出てくる。その辺のことも入れたほうがいいのでは。

・担い手の不足は若い人が市外へ出て行ってしまって残ってもらえないのも原因。そこには

まちへの愛着を持ってもらえて、官僚的な人間を育てることだけでなくて地元で働いて

くれるような人材を育てる教育なんかももっとやっていかないといけない。自分も橋本

で働きながら東京や国外と仕事をしているし、そういうこともできるということを理解

してもらえるように考えなければならない。

・時代に合わせてまちづくりのビジョンやまちの作り方を変えていかなければいけない。こ

れまではトップダウンで行う都市計画が主だったが、これからはどちらかというとボト

ムアップ、地域がそれぞれ都市計画を支えていくという時代なのかと思う。

・後継者不足、人が外に出て行って戻ってこないのはなぜなのか。それは不満、不足がある

からだと思う。その不足を埋めることを計画の中で考えなければならない。今、多くの人

は今のまちの規模から衰退するので、すべてをそれに合わせた規模にしないといけない、

という考え方をしていると思う。しかし、定住人口は減っていっても交流人口や関係人口

を維持することはできると思っている。定住人口に合わせて全てを減らすとそういった

ものも全て減らすとなってくる。先日市外から移住された方の話を伺ったことがあるが、

自然が素晴らしいと。ただ、文化的な活動の発表の場がない、といった話をおっしゃって

いたので、自然を守りつつ文化的な活動の環境を作る、といった不足を補う考え方も必要

になってくるのではないか。

・高野山をはじめ歴史遺産と自然が混ざる橋本の環境は捨てたものではないと思う。都市計

画などで新しい道とこれまでの古い道を合わせて連携していくことで、観光などにもつ

ながっていくと思う。また、橋本単独だけではなく、近隣市町村だけではなく、大阪や奈

良までを含めた一体として文化・歴史は構築されているとも思う。その中で、橋本が中心

的な場所になれないかとも思う。また、今コロナを逆手にとって、動画配信などで観光地

を紹介するような取り組みもしている。

・防災の観点でも今後大きな災害が起こることが予想されていることから、市に防災学習セ

ンターのようなものを作って、広域から人を集めて学習できるような場所を設けてほし

い。

・高野口の用途地域についてはどうなるのか。

→何らかのルール作りは必要と考えているが、具体的な調査からまず始めなければいけな

い。

→現状空き家が増えたりしていっているので、調査はしやすい状況にはなっているのでは。

・かつらぎ町が庁舎の移転と併せて様々な取り組みを行おうとしている。きっと紀北地域の

中心は今後かつらぎになる。かつらぎに対して向かっていくのか協力するのか、別の路線

を目指すのかはどれでもいいとは思うけれども、橋本市としての色をしっかり出してい

く意識をしないとだめだと思う。橋本市が今後も和歌山の玄関口であり続けられる保証

はもうない。

・市として、もっと周辺の情報収集をしてそれらを踏まえたうえでまちづくりを考えられる

環境を整えてほしい。すでに出ている情報だけを並べられてそれに基づいて計画を決め

ても周りはもっと先に進んでいる。今大きくまちとしての岐路に立っている。ここでしっ

かりといい街を作る方向に進んでいかないと大きく取り残される。

・紀ノ川筋だけで見ても、都市の規模から考えて全ての自治体が総合都市になることはな

い。なので、各都市それぞれが色を出していく必要がある。その中で、橋本市は一応今工

業団地の整備で工業都市の色を出そうとしている。そういった考え方も踏まえて整理し

ていくのも計画の中に含まれるのかなと思う。

・工業都市として売っていくというのであれば、もっと意識を持たないと先進地が多く存在

するので難しいとは思う。大きな開発を具体的に進めていくにはある程度投資をしてく

れる民間事業者と話がつまっていないと難しい。先に計画だけを作って、お金を出してく

れるところを後から探してもまず見つからない。なので、市としてビジョンは持つ必要が

あるが、細かい計画の話は組める相方とする必要がある。そして民間に投資してもらえる

魅力のある下地を提供しなければならない。

・以前から話に出てきている図書館、これはまちの拠点として欲しいなと感じる。若い人の

地元への愛着という面で、地域の文化、歴史、自然を感じる拠点としても図書館は重要だ

と感じる。

・（橋本はじめ和歌山は今後も車社会であることは間違いない。その中で、）エネルギー施策

が今後大きく変化していく。そういった話し合いも若い人にも混ざってもらって考えて

いかないといけないと思う。そしてそういった話し合いをうまく回すための教育なども

していってほしいと思う。

・若い人に政治に興味を持ってもらう取り組みとして、実際に彼らが話し合って考えたこと

に行政がお金を出すということをやっているところがある。意見を出しても棚上げされ

たままであればやはり興味も失われる。まちづくりに関心を持ってもらうためにも似た

ような仕組み作りはしていきたい。

・（まちづくりの計画をしっかりと作った後、）若い人たちに、なぜそうするのか、数字や根

拠などを示してしっかり話をしてあげてほしい。その上で、このまちにはこのまちのどう

いう良いところがあって、という風に理解してもらえるように。

・今、テレワークなどで働く場所にとらわれなくなっている。だから余計に住みたいところ

に人は住むようになってくる。これからはどんなところに住みたいと思うのか、をもっと

探っていかないといけない。

・橋本市には、自然が当然のようにある。都会ではやはりどうしてもそうはいかない。住ん

でいる人がその価値をわかっていないと思う。

・自然があることは確かだけれども、その自然をどう守って、どのようにまちの武器として

生かしていくかということを考えないといけない。ただ守ると漠然と書いてしまうとそ

れで満足してしまって結局何も動かない。

・今回の計画では各地域ごとの地区計画を策定するのか。

→地区計画というより、まちの根本となる構造的なテーマを理解しにくいので、今回はテー

マ別に計画を組み立てたい。その中で、テーマに沿ってそれぞれの地区の話を入れていく

ことになると思う。

→例えばここに図書館を作る、といった具体的なところまでは踏み込まない？

→踏み込まない。候補地や有望な場所、くらいの記述はできるかもしれないが、まずは具体

化するために調査を進める、というところを書いたらと思っている。